

全国フォーラムにおける、分科会活動の導入について

1. 経緯

2020 年度第 1 回 ESD 企画運営委員会において、学びあいをさらに促進する目的で、ESD 推進ネットワークで新たに分科会を導入する方針を議論し、2020 年度については、各地方センターの契約に照らして、可能な範囲で 2021 年度以降の活動に向けた仕込みを進めることとした。

その後、環境省では、2021 年度の ESD 地方センター運營業務の検討において、新たに ESD 全国フォーラムに分科会活動を提案し、活動テーマの設定、参加者募集、学びあいの実施、実践活動、フォーラムへの報告等の業務を盛り込むよう調整しているところ。2021 年に実施の準備が進んでいる。

2. 目的：

地域を越えた学び合いによる各地の取組の強化。

地域 ESD 活動推進拠点をはじめとするネットワーク参加者の拡大を背景に、テーマ別の学び合いの促進の場を設ける。

<参考> 第 2 期 ESD の国内実施計画における関連記述の検討状況

5. 実施のためのメカニズム（重点実施領域）

(1)ステークホルダーのネットワーク・情報発信の強化（新規）

（略）

また、全国で等しく ESD 実践のための支援を受けられる体制を維持するとともに、ネットワークの拡大を受けてテーマ別の学びあいの仕組みを導入し、ESD 活動の高度化を図る。

3. 期待する成果：

- 分科会に参加する ESD 実施者等が、意見交換及び学び合いを通して ESD 活動を、より効果的な活動へと活動を向上する。
- 実施を通じた各種 ESD 活動の具体的な知見を獲得・共有
 - 活動モデル事例の蓄積
 - ・ 各地方センターの特色を活かした効果的な ESD 活動の進化
 - ・ テーマ別の専門家の見える化
 - ・ さらなるネットワーク参加者の巻き込み

4. 実施方法

4-6月 テーマ設定、中核となる実践者の選定（パートナーの選定）

テーマは、全国センターとの相談、地方事務所との協議を経て、各地方センターが決定

7月 募集。他のセンターの募集への協力

第1回分科会で、顔合わせ、講義等

8-11月 分科会を3回程度開催し、実践の目的と実施計画の策定を通じた学びあいを実現

秋頃 実践活動を実施

12月 全国フォーラムに報告。

1-3月 得られた知見や今後への示唆のとりまとめ。報告作成

5. テーマ設定の考え方

学習テーマ × 学習対象者 × 手段（場）

1-3年でテーマを新しくすることで、参加者が流動しやすい仕組みとする。

6. その他

- ・分科会参加者は、ESD 実践者であり、地域 ESD 活動推進拠点を主たる対象とする。地域 ESD 活動推進拠点に属していない ESD 実践者の分科会参加は排除しない（拠点登録を誘う）。
- ・1つの拠点が複数の分科会に参加することは自由。
- ・実施のためには、地方センターの主体的な支援が不可欠。
- ・従来の地方セミナーでは、引き続き、当該地域における ESD 実践者の獲得・育成・交流等支援を行う。

<参考> 2020 年度 第 1 回企画運営委員会資料（抜粋）

2-4. 学び合いの促進

① 全国フォーラムの開催

- ・実施目的：地域内連携の強化、地域を越えた学び合いによる各地の取組の強化
- ・実施手法：
 - ・全国フォーラムに分科会活動を導入する。
 - ・分科会活動は新規の全国プロジェクト、または既に取り組んでいる地域内でのプロジェクトの全国的普及を目指すもの。
 - ・各分科会に中核となる人・組織を置き、ESD 地方センターが分科会の中核メンバーをサポートする。
- ・その他：地方センターがサポートすることがポイント。
このため、各センターの契約にも照らして、2021 年度以降の活動に向けて 2020 年度可能な範囲で仕込みを進める。
 - ・分科会のテーマ設定・設計に当たっては、全国センターを通じて環境省および文部科学省の担当官の確認を得る。
 - ・学び合いの結果・成果を実施することを重視する。機動的な活動を目指し、個々のテーマは 1～3 年程度を基本とする。また、拠点の参加が少ないテーマは年度途中であっても機動的に変更する。
- ・成果測定：全国フォーラム・分科会参加者数、分科会等成果（拡充と波及）